

安全データシート

TFM

作成日:2012 年 7 月 1 日

改訂日:2025 年 4 月 1 日

1. 化学品等及び会社情報

化学品の名称	TFM(ティッシュフリーズマウント)
製品コード	303-100-1～5(クリア、青、黄、赤、緑)
会社名	株式会社ファルマ
住所	東京都渋谷区大山町 36-7
電話番号	03-6407-2570
ファックス番号	03-3465-0300
電子メールアドレス	marketing2@falma.co.jp
緊急連絡電話番号	080-8878-0242
推奨用途及び使用上の制限	試験研究用:病理組織用凍結包埋剤

2. 危険有害性の要約

GHS 分類	いずれの項目も、分類対象外、分類できない又は区分外
GHS ラベル要素	
絵表示	該当なし
注意喚起語	該当なし
危険有害性情報	なし
注意書き	
安全対策	なし
応急措置	なし
保管	なし
廃棄	なし

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別	混合物
成分	①ポリエチレングリコール ②ポリビニルアルコール

4. 応急措置

吸入した場合	気分が悪い時は、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	水で洗うこと。皮膚刺激が生じた場合、医師の診察、手当を受けること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。眼の刺激が持続する場合は、医師の診察、手当を受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。気分が悪い時は、医師の診察、手当を受けること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	水、二酸化炭素、粉末、砂、土、泡
使ってはならない消火剤	なし
火災時の特有の危険有害性	データなし
特有の消火方法	データなし
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	消火作業の際は、適切な保護具（手袋、眼鏡、マスク等）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	密閉された場所に立ち入る前に換気する。 必要に応じ、保護具を着用する。
環境に対する注意事項	漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。
封じ込め、浄化の方法及び機材	漏出物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。
安全取扱注意事項	使用後は容器を密閉すること。
衛生対策	取扱い後は手などをよく洗うこと。
保管	
安全な保管条件	日光を避け、密閉して室温で保管すること。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度及び許容濃度	未設定
設備対策	排気用の換気設備を設けること。 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
保護具	
呼吸用保護具	状況に応じた適切な呼吸用保護具を使用する。
手の保護具	保護手袋を着用する。
眼の保護具	サイドガード付きの保護眼鏡を着用する。
皮膚及び身体の保護具	必要に応じ、保護衣又は長袖作業衣を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态	
物理状态	透明粘稠性液体
色	無色又は青、黄、赤、緑
臭い	微臭
融点／凝固点	データなし

沸点又は初留点及び沸騰範囲	データなし
可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限界／ 可燃限界	データなし
引火点	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	4～6
動粘性率	データなし
溶解度	水に溶解
n-オクタノール／水分配係数	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	1.03(水=1)
相対ガス密度	データなし
粒子特性	該当しない

10. 安定性及び反応性

反応性	通常の条件下で安定。
化学的安定性	通常の条件下で安定。
危険有害反応可能性	なし
避けるべき条件	なし
混触危険物質	なし
危険有害な分解生成物	一酸化炭素、二酸化炭素

11. 有害性情報

急性毒性	
経口	ラット LD ₅₀ >100 g/kg
経皮	ウサギ LD ₅₀ >50 g/kg
吸入：蒸気	データなし
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	データなし
眼に対する重篤な損傷性又は 眼刺激性	データなし
呼吸器感作性	データなし
皮膚感作性	データなし
生殖細胞変異原性	データなし
発がん性	データなし
生殖毒性	データなし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	データなし
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	データなし
誤えん有害性	データなし

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性)	データなし
水生環境有害性 長期(慢性)	データなし
残留性・分解性	データなし
生態蓄積性	データなし
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	モントリオール議定書に列記されていない。

13. 廃棄上の注意

化学品(残余廃棄物)、当該	焼却又は地方自治体の基準に従うこと。
化学品が付着している汚染	容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制並びに地
容器及び包装の安全で、かつ、	方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
環境上望ましい廃棄、又は	空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
リサイクルに関する情報	

14. 輸送上の注意

規制なし

注意事項	輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 重量物を上積みしない。
------	---

15. 適用法令

非該当

上記内容は当社で入手可能な情報に基づいて作成していますが、記載データや評価に関しては、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。未知の有害性があり得ますので、取扱には十分ご注意ください。
本 SDS は JIS Z7253:2019 に準拠して作成しています。